

# 虫の目、鳥の目通信 第10号

## 会員募集中!

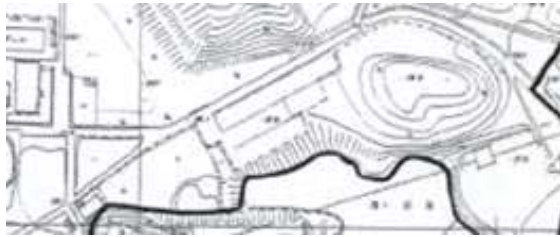
2007年4月15日



「突然ですが、こんにちは。私はどんな体をしているでしょう？ 結構可愛いって？ 答えは次のページの下のほうです。」

3月31日に簡保レクセンター跡地の自然観察会をしました。天気が不安定だった3月末、この日も午前中は曇り、お昼すぎにはポツポツと雨が降り出しました。大人14人、子ども1人の参加でした。今回の皆さんの感想です。

- \* 細かく様々なものを見ながらほんの少ししか歩いていないのに、こんなに時間が早く経ったのに驚いた。M



私たちが歩いたのはこの地図の範囲です。お散歩だと10分くらいでしょうか。ゆっくりと様々なものを見て歩きます。携帯の実態顕微鏡で見るとツクシ(写真・山本勝)もこんな風に。青い粒は孢子です。



- \* 望遠鏡や拡大鏡などで見る世界がこんなに素晴らしいとは。M

- \* 色んな物を拡大したが、特にツクシがおもしろかった。M
- \* 拡大が面白かった。ニュウナイスズメを見れたのも良かった。M
- \* 顕微鏡など色んな観察道具があるんだなあ。イスノキの虫こぶがおもしろかった。M
- \* 地獄釜蓋(ジゴクノカマノフタ) という花の名前にびっくりした。感動さえ覚えた。K



お彼岸の今頃、地獄の釜の蓋がひらいているのでしょうか？ それともこの花が蓋をしてくれているのでしょうか？

- \* 普段声は良く聞くウグイス、今日は姿も見られて良かった。S
- \* 1年前の観察会で見たヨコツナサシガメが頭から離れなかったが、本日もあの姿を見ることができた。M
- \* ニュウナイスズメやガガンボの仲間を見られて良かった。Y

- \* 灯火に飛んでくるガガンボ、家ではたたいてしまうが、ウムム……。M

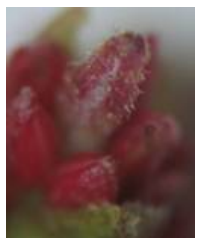


- \* 水生昆虫、見られて良かった。K
- \* オタマジャクシの育てているのを見たかったが、残念なことに姿が見られなかった。Y

今回観察した水たまりでは姿がみられませんでしたね。浅い水たまりは天候に左右されます。湿地は微妙なバランスの上になりたっているんですね。また、春先に孵化したものすごい数のオタマジャクシは、同じ水たまりで越冬していた水生昆虫や、イカルチドリなどの野鳥の貴重なタンパク源としても利用されていることでしょう。



- \* 1本の木でも、例えばイスノキにも、蕾やヒヨンの笛など色んな面があるんですね。Y
- \* 色んな発見があった。イスノキの花(写真・山本勝)にはビックリ。水生昆虫いるんだな。Y



**イスノキの花 溝口さんの解説** 花の中心に出ているのは雌しべで先が裂けた状態に分かれています。(後で開きます。付録参照) 雌しべは一本です。まわりに袋を頭につけたようにして、雌しべをとりかこんでいるのは雄しべです。この袋の中に花粉をいっぱい入れていて、これが裂けて花粉を吐き出し雌しべの柱頭にくっついて受粉させるわけです。この木は公園などにも植えられていますね。ハラビロカマキリがこんなガザガザの枝に卵を。枝をこんなにしたのは誰でしょう？ 小さな糞の塊もついていました。

今なら間に合う！ 残したい自然と文化  
湿地 と 茅場 と 森林 と

福岡県小郡市三沢の「簡保レクセンター跡地」は  
私たちの観察フィールドです。



三国丘陵の自然を楽しむ会

代表 松永紀代子 [willard@mbc.ocn.ne.jp](mailto:willard@mbc.ocn.ne.jp)  
電話・ファックス 092-920-3072

お知らせ

3月初めに行われた「九州環境教育ミーティング in 福岡」という大会の報告書がもうすぐできあがります。それに、様々な会の宣伝を名刺大2千円で載せられるが、当会でも載せないか、と問い合わせがありました。31日の参加者とともに話し合い、載せることになりました。皆で考えたものが左です。「今なら間に合う」キャンペーンです。尚、その大会には福岡県自然観察指導員連絡協議会や野鳥の会などからも参加者があり、松永も参加致しました。宣伝費は皆様からお預かりしております会費からいただきました。

また、かねてからお伝えしておりましたように小郡市にも要望書を提出しました。詳しくは、虫の目、鳥の目通信臨時2号をごらんください。要望書の作成をお手伝い頂いた皆様、市役所との話し合いにご同行下さった皆様、ありがとうございました。



ちょっと立ち話

一度観察会にも参加して下さった地元のご年配の方から子どもの頃のお話をうかがいました。コガモ左♂右♀

「あの頃は、夕方モズがギチギチ鳴き始めるとカモが飛び始めて、2番鳴きする頃にはどんどん増え、空が真っ暗になるくらい沢山飛んでいたな。」 冬場のミヤマガラスのねぐら入りみたいにしていい数でしょうか？ 「ああ、そうさ。今はこんなに夜が明るくなって、もう来るもんか、な。来てもちっとだけだね。」

「電車道から東の横隈の池では昼間もカモ猟をしていたな。子どもの頃ザリガニ獲りに入って叱られたよ。『さわるから入ったら行かん！』って。つまり驚かすとカモはしばらく来ないようになるからね。そういうことを『さわる』って言うった。」

「昼間も猟ができるほど来ていたカモ、どんな料理にしていたんでしょう？ 「カモ飯（ニワトリ飯のようなもの）。それから煮付けだね。自分たちが誕生会などで集まったりしてもカモを食べた。そんなときは1羽食いとかね。」とにかくカモ肉はいっぱいあったからね。」 コガモが6羽で一番（ひとつがい）と数えると聞きましたが、「ああ、あれは小さいからね。ホンガモは♂♀で一番。そういう数え方をしていたね。」

「子どもの頃夜の無双網猟に連れて行ってもらったことが何回かあるけれど、残念ながら1度も獲れなかったよ。猟場は入札で決めていたね。当時は、2番小屋と言って山の中で簡単な小屋、炭焼きするときのような穴にちょっと何かかぶせただけのもんだけど、そこで大人たちはお酒を飲んで暖を取りながらカモが来るのを待ったものさ。この小屋は猟場のものより、もっと大きいよ。猟場はあちこちにあったから、時間が来ると『あなたはあそこ』、『俺はこっち』という風にそれぞれの場所に出て行った。猟場に着くと小さな小屋から針金（8番線）をひっぱるのさ。素早く網が開くようにヒモではなく針金が網に結びつけられていた。」 あの網は田んぼ1枚を覆ってしまうくらいに広がるんでしょうか？ 「いいや、もっと小さいよ。2mくらいの幅までしか開かない。」

「私のじい様は、『カモ1000羽の羽毛を布団にして寝てる』と言っていたよ。それくらいカモが獲れていたんだな。基山に抜ける道沿いにも沢山来ていた。自分が大人になってから、子どもたちに無双網を体験させたことがあったけど夜猟場に連れて行くのに遠いので結局続かなかったな。この簡保レクセンター跡地の四角い水たまりで……、そんなことができたらどうかね。」

答え ヒサカキに付いた尺取虫です。（シヤクガの仲間）



雄しべを食べて、花びら食べてごちそうさま。ささくれた花びらの一部につかまってちょっと休憩中。

花瓶に枝を挿したら枝振りが変になって花が横向きに。食べにくかったかな？4月3日、花が全部終わってしまいました。どうするんだろう？ ぜ〜んぜん心配なし。そのころには柔らかな新芽がでてきて、それをパクパク。でも次の日にはひからびた花の食べ残しに。やっぱり花に未練あり？

新入会員 辛島真由美、吉岡敦之、酒見裕子、末永光代

今後の予定 簡保レクセンター跡地記録会兼観察会

4月22日（日） 5月19日（土）

跡地内を自由に歩いていただき、それぞれの分野で、記録を取って下さい。

集合 9時30分 跡地正門付近 お昼ごろまで

駐車場代と保険料など、小銭をお持ち下さい。自然観察初めての方案しめすよ！

電子版

発行元 三国丘陵の自然を楽しむ会

連絡先 [willard@mbc.ocn.ne.jp](mailto:willard@mbc.ocn.ne.jp)

写真 山本勝、松下彩二

編集協力 安部泰男、勝野史雄

写真・カット・文 まつながきよこ

